



勝手に吹田遺産 その15

万博会場の下は弾薬庫だった

万博記念公園横にある資源リサイクルセンター入口に「旧海軍山田倉庫跡地」の銘版が立っています。

山田郷土史「山田のあゆみ」によりますと、昭和17年、海軍大阪警備府が山田別所ケシタニに地下弾薬庫の建設を計画、18年には掘削を開始されたとしています。

太平洋戦争に突入して1年もたずして日本の軍部は秘密裏に、しかも大規模な地下施設を吹田から高槻にかけての北摂の山裾に掘り始めたのです。そうして、後に万博会場の一角となった旧山田村に掘られた地下弾薬庫には膨大な爆薬、爆弾、銃砲弾が運び込まれました。

長く判らなかつた「海軍山田弾薬庫」の実態は1993年、山田高校の先生の調査で



A号からF号までの本トンネルが掘られ、見張り所も建てられた

明らかになりました。調査では旧エキスポランドからスポーツ広場にかけて6本のトンネルが掘られていたそうです。

敗戦すく昭和20年9月、いち早く米軍がやってきて、山田弾薬庫から弾薬の運び出し、現地での爆破処理を始めました。

爆破時の轟音、振動はさまざま、近くの農家では地響きと共に屋根瓦がずり落ちたりしたそうです。困った山田村の人々は代表を選び連合軍に直接交渉をこころみましたが、戦後すくのこと連合軍から相手にもされなかつたと伝えられています。

それから25年、弾薬庫跡地をブルトーザが掘りかえし「人類の進歩と調和」をテーマに70年大阪万博が開催されたのです。

画・文 高宮 信一



西山田中学校吹奏楽部を先頭に恒例のよっといでパレード



前夜祭
パンダコパンダ
沖繩民謡
アニメ
ジャズ
オーケストラに
うっとり



20ブースの広場企画



さわやかな秋晴れのもと4万8千人が集う

9月18、19日に千里南公園で「吹田よっといで祭」が開催されました。会場には、さまざまな模擬店やフリーマーケットが所狭しと並び、中央

舞台では子どもたちのダンス、ケンダム披露など、来場者と一体となつたパフォーマンスが繰り広げられました。

中央舞台、会場も人、人、人……

子どもも大人も魅了
シャボン玉ショー

フリーマーケット
もんだかり

なんでもパフォーマンス
来年、あなたもチャレンジを

フォーカス

このコラムが目につけるころ、すでに結果は明らかだろう。あの名古屋市長がおりまわっている市議会解散請求署名である。結果はさておき、問題は、橋下大阪府知事の応援の弁、「首長の公約は議会が最大限尊重すべきだ。(市議会は)首長軽視も甚だし

い」にも象徴される「二元代表制の見直し・廃止」である。現在法改正も検討されており、ことは名古屋市だけの問題ではない。

地方自治体は国とは違い、議決機関としての議会と執行機関としての長、両者とも直接選挙で選ばれる。それぞれが住民の代表として対等であり、権限も分かちあう。当然、対立することもあるが、議論を通じて地方自治が運営される。これがいわゆる「二元代表制」である。政府や橋下知事らはこれをやめ、首長の立場をより強いものにしうというわけだ。

しかし、私たち吹田市民は二元代表制の「効き目」を良く知っている。阪口市長の一方的な「公共料金の値上げ案」に、折からの不況と生活悪化で市民は反発、市議会は事実上否決した。また、「みんなで支えるまちづくり条例案」というのも市長はまともにも説明できず、市議会提案を取り下げた、などなど。たとえ「公約」であっても、住民生活のためにならないこと、不要・不急なものが、市民の運動や市議会を

通じ淘汰される。私たちにあってはうれしい「効き目」だ。

「人気」にあやかろうと知事にすりよったり、議員の数をへらしたりしている場合ではない。首長も議会も住民のためにこそ二元代表制の機能を十二分に発揮すべきときである。「地方自治は民主主義の小学校である」という。知事や市長の派手なパフォーマンスとそれにかかれるマスコミ報道―民主主義というフィルターを通して冷静に見ておかないと、そのツケがまわってくるのは、結局ごちでしょ。

(つとむはる)